

農業振興公社だより

あけましておめでとうございませす



理事長 大友 喜助

【新年のご挨拶】
会員の皆様にはつつがなく平成二十六年の新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

公社の事業運営に對しましては日頃より格別のご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年は、水稲はじめ各農産物は大きな災害もなく比較的順調に生育・収穫することができました。とりわけ水稲にあつては、一時水不足や低温、日照不足などがあり大変心配されましたが、その後は順調に推移をし、作柄は「やや良」ということになりました。また、心配されました放射性セシウムの残留検査も管内のすべてのサンプルで不検出となり、順調に出荷・販売ができたところで、農政大転

換の知らせが飛び込んで参りました。四十年余続いてきた米の生産調整の廃止、米の直接支払交付金の削減などの方針が打ち出されました。全体的にどのように進めていこうとしているのか見えなところもあり、会員の皆さんは大変心配しているのではないかと思います。

ただ、これまでのような流れでいけば、担い手の育成や耕作放棄地の問題等は解決できずに進むことは目に見えています。新たな施策が効果を発揮するのか、そうでなければどうすべきなのか、制度の中身を確認しつつ角田の農業をしっかり守り、発展させていかなければならないと考えているところです。生産者、関係者が連携しながら着実に進めていけるよう努力したいと存じます。

なお、法人制度改革に伴い昨年四月、当公社は「公益社団法人」として新たにスタートを切りました。前述しましたように、農政大転換期にあつて、さらに先の見通せない状況下にあります。農業関係団体の一つとして果たさなければならぬ役割は大変大きなものがございます。その責務を自覚

◆ 発行 ◆

(公社) 角田市農業振興公社
〒981-1505 宮城県角田市角田字大坊四一
電話 (0224) 63-1328
FAX (0224) 61-1511
URL <http://www.kakunou.or.jp/>

E-mail kakuda@kakunou.or.jp

し、取り組みを進めて参りますので、公社運営につきましても関係者の皆様のご理解と一層のご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝と益々のご活躍をご祈念申し上げ、新年にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。



● 冬の花壇に「ユリ」

十一月二十日頃から十二月中旬まで公社の花壇にユリの花が咲きました。

色ついたつつしの生垣の間に顔をのぞかせ、『冬に咲くユリもあるの?』とちょっとした話題になりました。

農業戦略会議開く

十二月十六日、今年度第一回の角田市農業戦略会議が公社会議室で開かれました。この戦略会議は、角田市の農業振興に関することや公社運営に関することなどについて検討、企画・立案等を行うことを目的に設置されています。会議では初めに、前任者の任期が満了していることから、新たに

委員十九名、支援委員二名に委嘱状が交付されました。その後、会議の運営や調整を行う幹事を選任し、幹事の一人の面川氏を座長に協議が行われました。協議では、戦略会議が数年のブランクがあったことから、初めての委員も多かったことから、これまでの戦略会議の経緯や今後の運営、課題の整理などについて意見交換が行われ、具体的な方向付けなどについては次回以降に協議することになりました。

委員・支援委員になられたのは次の方々です。(役職、敬称略)

- 委員・岸浪 俊一 鎌田 源秋
 - 松沢 栄子 門馬 希道
 - 伊藤 稔 三品 典俊
 - 加藤 貞由美 面川 義明
 - 佐藤 武久 遠藤 裕一
 - 三浦 徹 (農業経営体)
 - 齋藤 誠一 (角田市)
 - 山田 秀一 (農業委員会)
 - 齋藤 巧一 馬場 紀男
 - (みやぎ仙南農協)
 - 星 晋一 (県南農業共済組合)
 - 武藤 広一 (角田土地改良区)
 - 齋藤 啓二 (関東土地改良区)
 - 馬場 征晴 (農協青年部)
- 支援委員…
- 服部 信次 荒木 利幸
 - (大河原地方振興事務所)

「目黒区消費生活展」
に参加しました

十一月九日（土）、十日（日）の二日間、東京目黒区民センターで消費生活展が開催され、農業実践塾生の『出前塾』として、塾生十三人が参加、農産物の販売を通して、角田の紹介と消費者との交流を積極的に行いました。

販売関係では、野菜などの農産物は初日で完売、そのほか、米や農産物加工品、虹の園お菓子やドレッシングなども二日間ではほとんど完売するなど好評でした。また、今回は消費者と交流を深めることも課題とし、参加者全員が自己PRする名札と名刺を作成、販売活動に活用しました。さらに、初日開催された交流会には全員で参加し、消費者やほかの参加団体の方と親交を深めてきました。

◆◆カメラリポート◆◆

目黒区の青木区長と実行委員長の日比野さんの挨拶で幕開け。青木区長は、消費生活の大切さを理解してもらうために区の広報のトップで区民に知らせたことを紹介しました。



販売開始 テントの前には人だかりも・・・

試食に『栗ご飯』と『3めご飯』（梅ご飯に枝豆をあしらえたもの）を振舞ったところ、「おいしい」と大好評でした。



合間に佐藤次長の尺八『長持ち唄』なども披露しました。



消費者との交流会の様子
それぞれのグループが持ち寄った梅酒やケーキ、漬物などをいただながら、話も弾みました。



第二回かくだ利き酒3酒
競技会開かれる

おらほの美酒を育てる会（岸浪俊一会長）は、角田市商工観光課、JAみやぎ仙南シンケンファクトリーと共催で、『第二回かくだ利き酒3酒競技会』を十月二十日（日）、シンケンファクトリーで開催し、百二十余人余が参加しました。

この競技会は、角田の地酒、梅酒、シンケンファクトリーの地ビールの3酒について、香りや美味しさなどを当てるもので、競技会を通じてかくだの美味しいお酒をピールするともに、参加者同士の交流を促進するために開催されたもの。



▲真剣な表情で利き酒・・・

競技会では、蔵王酒造株式会社和泉部長の競技説明、監督のもとでみな真剣な表情で試飲を繰り返していました。また、交流会では、参加したベガルタ仙台の白幡社長から、当日角田市で行われたベガルタ仙台レディースの公式戦の勝利報告があり、会場は一層の

盛り上がりを見せました。会場にはシンケンファクトリーのオリジナル料理のほか、角田の食材を提供する「おいしいかくだ」参加料理店からの料理提供もあり、美味しい食べ物とふんだんなお酒で参加者はリッチな楽しいひと時を過ごしました。

仙台から参加した人は「利き酒はみんなおいしくてわからなかったけど、料理もおいしくてとても楽しかった。また参加したい。」と話していました。

なお、競技会の結果は次の通りでした。（敬称略）

- 【日本酒の部】
- （一位）小野村治子
- （二位）笹森裕市
- （三位）井上秀樹
- 【ビールの部】
- （一位）勝川 亮
- （一位）清水正倫
- （三位）田所まゆみ
- 【梅酒の部】
- （一位）猪狩和浩
- （二位）南部昌秀
- （二位）猪狩のぶこ
- （二位）高橋寿幸
- （二位）日下裕紀
- （二位）玉淵和紀



▲優勝おめでとう・・・
表彰式

あぶくま農学校農業体験学習
〜稲刈り編〜

市内の西根小学校・北郷小学校・枝野小学校で「あぶくま農学校」を開校し、五月に田植えを行ったことは以前にお伝えしました。そして九月、稲穂が頭を垂れてきました。いよいよ稲刈です。

農業体験学習では稲を刈るときはもちろん鎌で刈ります。そこで、百姓先生たちが事前指導を行い、刈り取るタイミングにも随時指導を行い、怪我をしないように細心の注意を払って指導します。児童たちの手で刈っているときの真剣な表情、刈り終わった後の笑顔に充実感を感じました。

【十月八日 北郷小学校の稲刈りの様子】



児童たちは田植えから収穫まで、稲の育ち具合や様子を観察してきました。そして自分たちで植えた

稲の成長を自らの手で感じながら、農業体験学習は無事に終わりました。

【十月五日曇りの中 西根小学校の稲刈りの様子】



【十月五日 枝野小学校の稲刈りの様子】

上目黒小学校の福島校長先生も出席しました。



この三校では、目黒区の小学校と交流があり、春の田植え、秋の稲刈りを中心に農業体験学習を、地域のみなさんやPTA、JA青年部等関係者のみなさんとともに支援しておりました。今年も残念ながら、目黒区から参加できませんでしたが、目黒区の子どもたちが角田の田んぼで生の農業を体験する日がやってくることを心より願っています。

東京都目黒区の小学生が稲刈りとホームステイを体験

十月五日から六日の二日間、震災後初めて、東京都目黒区の有志二十五名が西根と北郷で稲刈り体験やホームステイをしました。その時の様子を写真で紹介します。

【稲刈り体験の様子】



【交流会の様子】



【農家見学の様子】



【ホームステイ先家族の紹介】



【バーベキューの様子】



農業経営も「ビジョン」が大切
農業者雇用支援講習

昨年度に続き十一月から十二月までパソナ（厚生労働省から委託を受けた研修実施会社）と共催で農業者雇用支援講習を計五回実施しました。農業所得のアップのため、経営分析、商品開発、経営管理などを習得することを目標に、専門家による講義を受けました。



▲ビジョンを互いに話し合う

第一回目は、ビジョンから目標、戦略、計画等に自分の経営を落とし込んでいく過程で何が欠けてもつまらないか、ということ、今回はビジョンを具体化していくことについて、聞き手、話し手に分かれての実務形式で学びました。第二回目は、今は「地域ブランド」の時代に入ってきているとして、消費者の商品の価値志向が強くなり、それに沿ったモノづくり

が必要ということから、ニーズにマッチする商品開発の仕方について、いろんな発想から絞り込みを行っていく手法（KJ法）を取り入れ実際に体験しました。



▲商品開発の手法を学ぶ

農事組合法人
館島田生産組合が設立



▲小野良雄代表による開会挨拶



▲農事組合法人館島田生産組合の方々

十二月十五日、ジュネス我妻で農事組合法人館島田生産組合創立総会が開催されました。小野良雄代表が開会の挨拶をした後、大河原地方振興事務所の鶴飼部長、角田市農政課の渡部係長が祝辞を述べました。その後来賓の紹介があり、議長選出に移りました。議長には佐藤武雄氏が選ばれ、第一号議案から第四号議案まで全会一致で拍手で承認されました。代表理事組合長には小野良雄氏、副組合長には佐藤勝征氏、会計には斎藤幸男氏が選任されました。

講演会のお知らせ

角田市農業経営者会議・角田市アグリパソナ研究会・角田地域担い手育成総合支援協議会主催による農政講演会及び制度資金学習会が開催されます。

日時 平成二十六年一月十七日
午後三時～午後五時半

場所 角田駅オークプラザ
イベントホール

①講演会テーマ
『農政大転換の中で
どう生きるか?』

講師 土門剛氏

②制度資金の概要について
(日本政策金融公庫からの情報
提供)

講師 日本政策金融公庫仙台支店
課長代理 佐伯さやか氏

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

